

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 22 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について ㊦	96
○平成 22 年度大会講演会における「企画セッション」の募集	102
○平成 21 年度全国優秀技術発表会の開催について (再) ㊦	102
○土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「パイプライン」発行のお知らせ (再)	103
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	103
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	103
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	104
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年秋季～冬季の表紙写真の募集	104
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	105
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	106
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	107
○北海道支部講習会の開催について (第 2 報) ㊦	107
○平成 21 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について (第 3 報) ㊦	108
○農業水利研究会部研究集会開催について (第 2 報) ㊦	109
○平成 21 年度東京フォーラムの開催について ㊦	109
○第 56 回風に関するシンポジウム開催について	110
○第 47 回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について	111
○ICID 第 6 回アジア地域会議における発表論文の募集について	111
学会記事	113

第 78 巻第 2 号予定

展望: 環境配慮施設の順応的管理について: 関岡英明

小特集: 整備された環境配慮 (生態系保全) 施設の順応的管理

- ① 順応的管理では何をモニタリングし、その結果をどう生かすのか: 水谷正一ほか
- ② 「逆面エコ・アグリ」の事例に見る地域住民主体の順応的管理の取組み: 守山拓弥ほか
- ③ 整備された魚道の効果検証と事業完了後の順応的管理: 齊藤孝則ほか
- ④ 生態系に配慮した圃場整備におけるメダカ配慮施設の評価の事例
— 門崎地区 (岩手県一関市) —: 広田純一ほか
- ⑤ 圃場整備における生態系に配慮した順応的管理: 川瀬政彦ほか
- ⑥ 宮城県大崎市北小塩地区における順応的管理の取組みと課題: 田村孝浩ほか

技術リポート

- 北海道支部: 軟弱地盤における矢板引抜き後の大口径管と周辺地盤の沈下: 狩野誠二ほか
 東北支部: 既設の本暗渠に地下水位調節機能を付加する簡易手法: 菅原 強ほか
 関東支部: プレストレストコンクリート水路橋の長寿命化技術について: 岡村康弘ほか
 京都支部: 沢海揚水機場の更新における除塵設備の選定: 桐林隆行
 中国四国支部: 2009 年 7 月山口・防府豪雨におけるため池の土石流防護・貯留効果: 田上愛仁ほか
 九州支部: 歴史を有するため池群の保全と活用について: 照山 剛ほか

小講座: HEP: 小出水規行

私のビジョン: 竹内潤一郎

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成22年1月28日	北海道支部	支部講習会	ⓑ 土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の解説ほか	札幌市	77巻12号 78巻1号
平成22年1月28日	中国四国支部	第33回地方講習会	ⓑ 「土地改良事業計画設計基準—パイプライン—」の解説ほか	松江市	77巻11,12号
平成22年2月13日	農業水利研究部会	平成21年度研究集会	ⓑ 水利資産の地域的活用と土地改良区の経営	東京都	77巻12号 78巻1号
平成22年2月18,19日	京都支部	平成21年度地方講習会・支部研修会	ⓑ 土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の解説ほか	金沢市	77巻10,12号 78巻1号
平成22年2月19日	行事企画委員会	平成21年度全国優秀技術発表会	ⓑ	東京都	77巻12号 78巻1号
平成22年3月5日	材料施工研究部会	第47回シンポジウム	ⓑ 農業水利施設の補修・補強対策の現状と今後の展望	東京都	77巻11,12号
平成22年8月31日～9月3日	大会運営委員会	平成22年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ	神戸市	77巻12号 78巻1号

平成22年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について

研究委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成22年度農業農村工学会大会講演会は、神戸大学百年記念館（六甲台第2キャンパス）及び共通教育棟（鶴甲第1キャンパス）において平成22年8月31日（火）、9月1日（水）、2日（木）の3日間、開催を予定しています。また、9月3日（金）には現地研修会を行う予定です。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。

今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌3月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込受付の際、会員番号を確認します。平成22年4月入会の場合も可とします。非会員の発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1人（共同研究の場合は代表発表者）1課題とします。ただし、企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めず（お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません）。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態の変更をお願いする場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態は、学会ホームページで5月末までにお知らせします。また、発表会場の設備、ポスターの大きさ等については、ポスター発表をする代表発表者へ、直接メールにてお知らせします。
- (6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分（発表12分、質疑3分）です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属・氏名、講演概要(200字以内)を、大会概要集に集録します。講演概要は文字数を厳守して下さい。200字を超えるものについては概要集への集録の際に文章を割愛します。
- (9) **座長総括**：各セッションの内容等を座長総括として担当座長にまとめていただきます。会員相互の理解を深め、また研究分野間の連携を進めるために行うものです。全体討論、研究動向の総括や各発表の関連と位置づけなどを、セッションの最

後の10分間で報告してもらいます。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演要旨原稿一式の提出、および申込料2,100円(消費税込み)の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料の返金はできません。郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。
- (2) 講演要旨原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙に印字した原稿で投稿して下さい。後述の「4. 講演要旨原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成にご協力下さい。CD-ROM作成を容易にするため、講演要旨原稿のファイルをPDF形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容のExcelファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 講演要旨原稿PDFファイルならびに投稿票Excelファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)として下さい(例:「taikai tarou.pdf」, 「taikai tarou.xls」)。これらファイルを電子メールでtaikai@jsidre.or.jpへお送り下さい。メール発信の際、表題(Subject)も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを返信します。
- (6) 投稿の受付は、次の書類の郵送および電子メールでのデータ送信をもって受領といたします。なお、郵送は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に「大会講演要旨原稿在中」と朱書きしてご送付下さい。原稿は折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒(角型2号)で送付して下さい。

●郵送してもらうもの

- ① 講演要旨原稿1部
- ② 原稿コピー3部
- ③ 投稿票1部(印刷用ページ)
- ④ 講演申込料の振替の写し
- ⑤ 入会申込書(非会員のみ)

●電子メールでデータ送信してもらうもの

- ① 講演要旨原稿PDFファイル
- ② 投稿票Excelデータファイル

- (7) 締切:平成22年3月31日(水)消印有効(遅延は不可)
- (8) 申込・問合せ先 農業農村工学会事務局大会担当(花塚)あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館内
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: taikai@jsidre.or.jp
郵便振替:00160-8-47993 加入者名:(社)農業農村工学会

銀行から郵便振替口座へのお振込の場合は次の口座番号となります。

金融機関コード:9900 銀行名:ゆうちょ銀行 店番:019 当座預金 0047993

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい(4月以降入会者は不要)。
- (2) 講演の概要は、必ず200字以内の日本語で記入して下さい(英文不可)。
- (3) プログラム編成に使用しますので、氏名、所属機関、講演題目(副題も含めて)は、必ず講演要旨原稿と一致させて下さい。
- (4) 講演希望部門(第1希望・第2希望)とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌?ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
- (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は、本誌101ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。

(下表の2段目, 3段目は, 1段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

代表 発表者 ○印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1								下の段を右につづける
2								
3								
8								

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E-mail	講演題目	講演題目(英文)	第1講演 希望部門	第2講演 希望部門

下の段を右につづける

キーワード1	キーワード2	キーワード3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	発表 形態	変更 諾否	講演の概要 (200字以内)

4. 講演要旨原稿の書き方

(1) 原稿用紙は、A4判（横 210 mm，縦 297 mm）の白紙とし，印刷の都合上，マージンは次のようにして下さい。

上：25 mm，下：27 mm，左：23 mm，右：25 mm

(2) 原稿は，オフセット印刷でモノクロに縮写され，B5判の大きさになります。

(3) 書式

① 文字：文字は，10.5 ポイント以上として下さい。標準フォントとして，MS 明朝，MS ゴシック，平成明朝，平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また，機種依存文字（①，②，…Ⅰ，Ⅱ，…等）も使わないで下さい。

上下左右のマージン内いっばいに，1 行 40 字，1 ページ 40 行，横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は，上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は，1 ページ目第 1 行と第 2 行に中央に寄せ，12～14 ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名は，第 4 行と第 5 行に中央に寄せ，10～12 ポイントで和英併記して下さい。連名の場合には代表発表者の前に○印をつけて下さい。

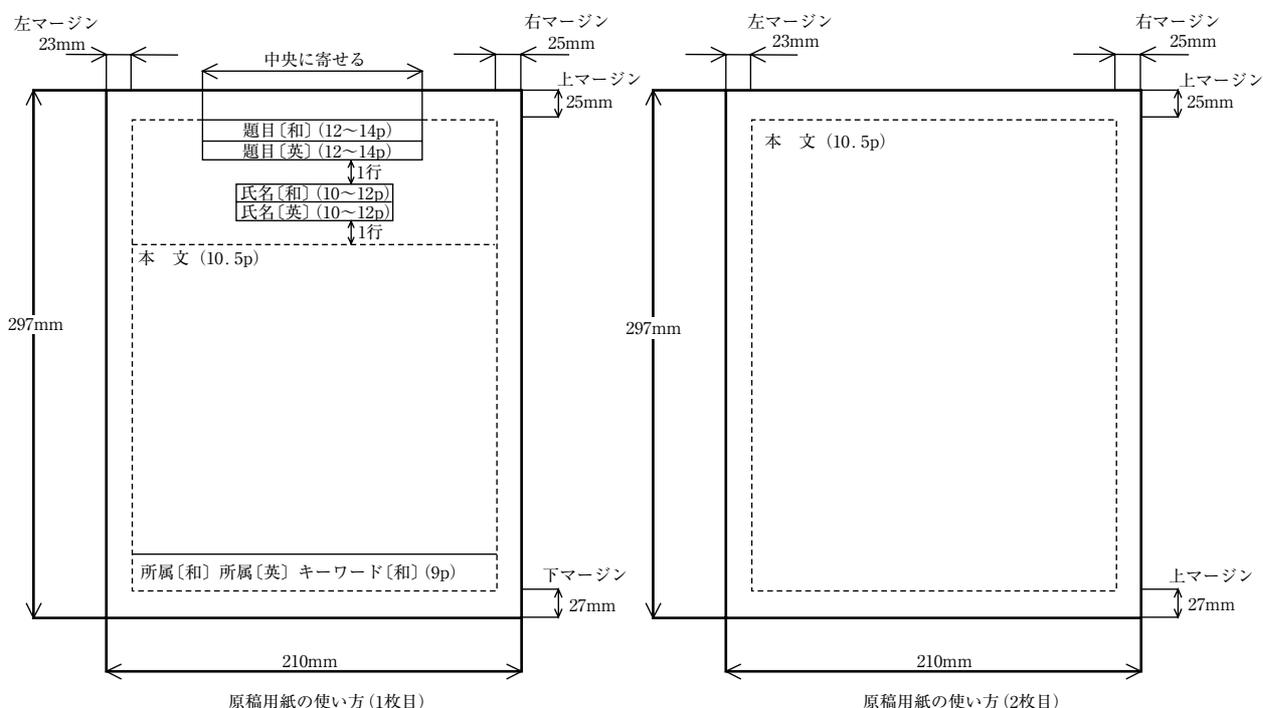
所属は，1 ページ目本文の下に横線を引き，その次の行に左に寄せ，9 ポイントで 1 行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお，講演者および所属が複数ある場合は，講演者名の右上に*や**を付けて，講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は，第 7 行から書き始めて下さい。2 ページ目は第 1 行から書いて下さい。

③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書込み（あるいは貼込み），幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ，左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお，図表表題にも英語を併記して下さい。

(4) その他：2 枚の原稿（コピー含む）の裏面右上に，鉛筆で，代表発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権，コピーライト）は，（社）農業農村工学会に帰属します。また，講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水取支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成22年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関 (共同研究の場合は、代表発表者に○印をつけて下さい。氏名の順序は、原稿と一致させて下さい。)

代表発表者に○印	会員番号	氏名	フリガナ	所属 (和)
			ローマ字 (姓_名)	所属 (英)
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

代表者の連絡先 (住所) 〒 _____
 (TEL) _____ (FAX) _____
 E-mail _____

Excel ファイルの送信日: _____

2. 講演題目 (題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。)

(和文) _____
 (英文) _____

3. 講演希望部門 (第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。)

第1希望	第2希望
------	------

1. 水理 2. 水文・水質・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
 8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード (上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。)

1	2	3
---	---	---

5. 図表などの数

写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数

6. 発表形態

	1. 口頭発表	2. ポスター発表
--	---------	-----------

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか?

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要 (200字以内) (必ず日本語で記入して下さい。)

平成 22 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 22 年度大会(8月31日～9月2日, 神戸大学共通教育棟(鶴甲第1キャンパス))における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は2月5日(金)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ:「オープン・タイプ」,「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)

なお, 類似した企画が提案された場合, 調整をお願いすることがあります。企画セッション数の上限は18程度とします。企画の採否については, 研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則100分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも, 最低2～3名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は会員であることを要しませんが, 大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては, 科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表, 特定テーマに関する最新情報の紹介, 等を想定していますが, 会員の皆様の自由な発想で企画セッ

ションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は, 従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし, 企画セッションでの発表は, プログラム編成上の理由から, 1人1件に限ります。各オーガナイザーは発表者選定にあたり, この点に十分留意して下さい。

なお, 企画セッションとはいえ, 研究発表と同等ですので, 講演要旨集には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また, 各セッションは100分を予定していますが, プログラムのブロック割りのため, セッション時間が100分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画の申込料は, 講演題数にかかわらず6題分(12,600円)となります。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切: 2月5日(金)
2. 研究委員会で調整の後, 応募テーマの採否の連絡: 2月12日(金)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接): 2月12日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切: 3月19日(金)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切: 3月31日(水)

申込・問合せ先: (社)農業農村工学会大会企画セッション担当(花塚)
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: taikai@jsidre.or.jp

平成 21 年度全国優秀技術発表会の開催について (再)

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度全国優秀技術発表会を下記のとおり企画しました。本発表会は, 平成 19 年度まで中央講習会として実施してきたものを名称変更しました。

本年度の各支部大会報告の中から, 特に評価が高く, 全国的なモデルになり得る地域の新たな取り組みについて, 各支部より発表いただくことを念頭に下記のとおり企画いたしましたので, ご参加下さい。

1. 主催 農業農村工学会行事企画委員会
2. 期日 平成 22 年 2 月 19 日(金)

3. 場所 農業土木会館 6 階会議室
4. プログラム(予定) 10:00～17:00
開会挨拶 行事企画委員長
講演 各支部選考の優秀技術に関する報告(40分程度)
意見交換
5. 参加費 一般 4,000円
会員割引 2,000円
学生割引 1,000円
6. 申込・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 社団法人 農業農村工学会 行事企画委員会

☎.03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
 E-mail: iwasaki@jsidre.or.jp 担当: 菊辻, 宇津木

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「パイプライン」発行のお知らせ (再)

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「パイプライン」が平成 21 年 11 月 20 日に発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

なお、主要改定内容は、次のとおりです。

- (1) 「土地改良施設耐震設計の手引き」を踏まえた耐震設計
- (2) 水理解析と各施設設計等の関連性の整理
- (3) 水撃圧の検討
- (4) 補修・補強に関する技術資料の整備
- (5) 新技術の取り込み

※詳しくは本誌 63 ページの「計画基準解説」に改定の趣旨を掲載いたしましたので、ご参照下さい。

書籍名…土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「パイプライン」

価 格…5,300 円 (消費税込, 送料学会負担)

規 格…A4 判 約 600 ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

FAX か E-mail でお申し込み下さい。様式は問いません。
 ご希望冊数, 送付先住所, 請求書の宛名をご記入下さい。

II. 個人, 会社で購入される場合

- ①現金書留: 書籍代金と, 書籍名, 冊数, 送付先住所を書いた文書をご同封下さい。
- ②郵便振替(00160-8-47993): 振替用紙の通信欄に書籍名, 冊数, 送付先住所をご記入下さい。

申 込 先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会事務局 図書係
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント, また, 通信教育で最大年間 18 CPD ポイント取得できますので, 是非, 通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で, かつ CPD 会員の方は, 農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお, この機会に農業農村工学会, 継続教育機構への入会を希望される方は, 同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので, ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は, いつからでも可能です。

3. 内 容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から, 機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で, 毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し, 回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果, 7 割以上正解で 1 CPD ポイント, 満点で 1.5 CPD ポイントが取得でき, CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り, 自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため, 学会が必要経費を負担しますので, 当分の間, 通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は, 農業農村工学の学術・技術の発展を通じて, わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし, 昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ, 農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとな

り, 東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには, 若い世代の育成, 新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は, これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成23年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ご

しているかもしれない水利遺構とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋」、「冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮

影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成 22 年 3 月 31 日（秋季～冬季の写真）

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 79 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 23 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1 点につき 3 万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78 巻 2 号 整備された環境配慮(生態系保全)施設の順応的管理(仮)	公募終了	
3 号 鳥獣被害の防止策とその効果(仮)	公募終了	
4 号 バイブラインの再生技術(仮)	公募終了	平成 22 年 1 月 12 日
5 号 農用地整備による地域の振興(仮)	公募せず	
6 号 大会関連	公募せず	
7 号 田園地域・里地里山の保全と生物多様性(仮)	平成 22 年 1 月 25 日	平成 22 年 3 月 10 日
8 号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術(仮)	平成 22 年 2 月 25 日	平成 22 年 4 月 12 日
9 号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり(仮)	平成 22 年 3 月 25 日	平成 22 年 5 月 10 日
10 号 農業農村整備を契機とした農村環境の保全(仮)	平成 22 年 4 月 25 日	平成 22 年 6 月 10 日
11 号 営農コスト削減に資する低コスト圃場整備の取組み(仮)	平成 22 年 5 月 25 日	平成 22 年 7 月 12 日
12 号 地域貢献とフィールド研究(仮)	平成 22 年 6 月 25 日	平成 22 年 8 月 12 日
1 号 次世代育成(仮)	平成 22 年 7 月 26 日	平成 22 年 9 月 10 日
2 号 ため池と農業農村工学(仮)	平成 22 年 8 月 25 日	平成 22 年 10 月 12 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

78巻8号テーマ「農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術」(仮)

わが国は2020年までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減する目標を表明した。

農業は温室効果ガスを排出する一方で、農山村においては既存の農業インフラである水利施設や遊休地などにおいて、小水力や太陽光、風力などによる発電、ヒートポンプや地下蓄熱、雪氷利用による省エネなどの多様な取組みによる温室効果ガス削減策を実行できる可能性を秘めている。

現在の農山村での生活、農業施設や水利システム、営農作業は、化石エネルギーに依存しているところが大きい。今後の低炭素社会の実現に向けて農山村は、最も再生可能エネルギーの恩恵を享受できる可能性のある場所であり、かつ積極的に取り

組むべき場所でもある。

近年、再生可能エネルギーの利用技術は、実証的に検討が行われている段階であると思われるが、それぞれの取組みの技術的な特徴や達成度、課題を把握することが必要である。さらに、これら再生可能エネルギーの実用に向けては、現行制度の問題点の解消や導入に向けた支援策などの充実も不可欠である。

そこで本特集では、農業農村工学分野における多様な再生可能エネルギーの利用促進に向けて、すでに小特集に取り上げたバイオマス関連を除く新たな技術の開発や実証の取組み、再生可能エネルギーの導入に向けた課題などについて報文を公募する。

78巻9号テーマ「広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり」(仮)

近年は、地震や集中豪雨による洪水・土石流、地すべりなどの農村社会に被害をもたらす災害が頻発し、広域的な災害リスク管理の必要性が増している。今後のさらなる地球温暖化による気候変動が、これらの災害被害を増大させる懸念もあり、これまで以上に広域的な視点での防災や減災の技術とリスク管理が求められる。

農業農村工学は農村社会や住民生活に密接した分野であり、広域的な災害リスク管理においても、災害の被災予測やハザードマップ等の情報管理から、総合的な防災・減災技術や復旧支援まで多様な面で重要な役割が期待されている。

さらに近年は農村社会において、過疎化、混住化などの住民構成の変化、ため池下流部や低平地への宅地の拡大など社会構造の変化に伴い、農村地域特有の新たな防災課題も生まれている。また、減災に向けた農用地の総合治水利用など、新たな取組みも見られはじめ、その際のハード面、ソフト面での課題も次第に明らかになってきている。

本特集では、多様な災害に強いこれからの農村づくりのために、近年の新たな課題をふまえた広域防災および地域防災に関する技術開発や取組みについて広く公募する。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年12月末にVol.7, No.4が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年12月末に Vol.7, No.4 が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国から Editor (14名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力を続けるなか、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社の SCIE に収録され、インパクトファクターを獲得したというビックニュースが飛び込んできました。詳細については Editor-in-Chief による海外ニュースが本誌 88 ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• **Editor-in-Chief** : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13カ国から14名

• **Editing Board** 32名

• **Managing Editors**

• **Chief Managing Editor** : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

• **Dr. Katsuyuki SHINOBI**

National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan

• **Prof. Dr. Haruhiko HORINO**

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

• **Dr. Kazunari FUKUMURA**

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

• **Prof. Dr. Soon-Jin HWANG**

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

北海道支部講習会の開催について（第2報）

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **日時** 平成22年1月28日（木）9：30～14：15

2. **会場** 札幌市・北海道大学学術交流会館

（札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ）

3. **プログラム**

9：35～10：35 土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の解説

農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室

仲田 雅輝

10：35～11：35 「農業水利施設の機能保全の手引き—パイプライン—」の策定について

関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所

加藤 公平

12:45~13:30 寒冷地の管水路構造機能の状態分析と管理・監視について

(独) 土木研究所寒地土木研究所寒地農業基盤研究グループ
秀島 好昭

13:30~14:15 パイプラインの設計における水撃圧について

(独) 土木研究所寒地土木研究所寒地農業基盤研究グループ
水利基盤チーム 中村 和正

4. 参加申込み・問合せ先

氏名・所属・会員/非会員を明記の上、メールまたはFAXにてお申し込下さい。申込みの締切は1月18日(月)です。

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当: 柏木淳一 E-mail:kashi@envagr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

5. 参加費

会員 3,000円, 非会員 4,000円

平成21年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について(第3報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

- (1) 地方講習会:平成22年2月18日(木) 13:00~17:10
(2) 支部研修会:平成22年2月19日(金) 10:00~16:00

2. 場所

石川県教育会館ホール

〒920-0961 石川県金沢市香林坊1-2-40 (☎076-222-1241)

【交通機関】JR金沢駅よりバス15分(「香林坊」下車,徒歩2分)

3. プログラム

- (1) 2月18日(木) 地方講習会

12:00~ 受付

13:00~13:10 開会挨拶

京都支部長(新潟大学農学部生産環境科学科教授)

有田 博之

13:10~14:10 土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」改訂の解説

農林水産省農村振興局設計課設計基準班課長補佐

松尾 浩司

14:10~15:10 土地改良事業計画設計基準・計画「農業用水(水田・畑)」の改訂方向

農林水産省農村振興局農村環境課計画基準班課長補佐

高橋 良次

15:10~15:20 休憩

15:20~16:20 農業水利施設の機能保全の手引き「パイプライン」について

農林水産省農村振興局水資源課管理技術班課長補佐

川合 規史

16:20~17:10 「農業水利施設の機能診断調査について」

富山県土地改良事業団体連合会整備課農村整備第1班班長

山崎 晃

17:10 閉会

- (2) 2月19日(金) 支部研修会

9:30~ 受付

10:00~10:10 開会挨拶 北陸農政局整備部長

10:10~11:10 基調講演「人材育成を考える」

京都大学名誉教授・石川県立大学参与 丸山 利輔

11:10~11:40 「耕作放棄地対策にかかる北陸農政局管内の取組」(仮)

北陸農政局農地整備課課長 大谷 寛

11:40~12:10 「北陸管内における企業の農業参入について」(仮)

(株)スギヨ管理部課長(農業事業担当) 川上 和孝

12:10~13:10 昼食

13:10~13:40 「坂井北部丘陵地における遊休農地再生の取組」(仮)

あわら市経済産業部部長 坪田 清孝

13:40~14:10 「大学・研究機関からのアプローチ~中山間地域における耕作放棄防止のための区画整理手法」

新潟大学災害復興科学センター助教 吉川 夏樹

14:10~14:30 休憩

14:30~16:00 パネルディスカッション

コーディネーター:

新潟大学農学部生産環境科学科教授 有田 博之

16:00 閉会挨拶 北陸農政局整備部設計課長

4. 参加費

区分	支部研修会	地方講習会	両方参加
会員	1,500円	1,500円	3,000円
非会員	2,000円	2,000円	4,000円

5. 参加申込方法等

- (1) 申込期限 平成22年1月26日(火)

- (2) 申込様式

下記の申込様式により,所属機関ごとに取りまとめ, E-mail または FAX でお申し込み下さい。

【申込様式】

平成21年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会申込書

所属機関

所在地(〒 —)

電話番号

FAX 番号

連絡者名

所属	氏名	会員区分	研修会	講習会	参加費	CPD 会員番号
(記入例)						
◇◇◇	農村太郎	会員	○	○	3,000 円	
	京都次郎	非会員	○	○	4,000 円	
計	2 名				7,000 円	

※参加は○、不参加は×を記入

(3) 参加申込先

北陸農政局整備部設計課 (阿部, 袖山, 壽時)
〒920-8566 石川県金沢市広坂 2-2-60
☎076-263-2161 FAX 076-234-8051

E-mail : norio_sodeyama@hokuriku.maff.go.jp

(4) 参加費納入方法

支部研修会, 地方講習会の開催当日に受付にて現金でお支払い願います。
(参加費を銀行振込みで希望される方は個別にご相談下さい。)

6. 宿泊・昼食

宿泊・昼食の斡旋・手配は行いませんので, 各自で申込等対応願います。

農業水利研究部会研究集会開催について (第 2 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。

1. テーマ 水利資産の地域的活用と土地改良区の経営

2. 趣 旨

水利資産を地域的に活用しつつ土地改良区の経営をどのように進めていくかという現代的課題について, 農業用水と地域とのかわり, 土地改良区の果たす役割や経営ならびに運営面での諸課題などを実際に現場で直面している土地改良区の関係者に講演をいただき, これからの農業水利と土地改良区の経営のあり方を考えてみたいと思います。

3. 日 時 平成 22 年 2 月 13 日 (土) 13 時~17 時

4. 場 所 航空会館 603 会議室
東京都港区新橋 1-18-1 ☎03-3501-1272

5. 参加費 無料

6. 講演題目および講演者

(1) 土地改良区活性化のために

元群馬県農政部 細野安高氏

(2) 群馬県長野堰地区の水利資産の地域的有効活用と土地改良区の役割

長野堰土地改良区事務局長 丸岡徳樹氏

(3) 長野県五郎兵衛用水地区の水利資産の保全活動と地域農業の活性化

五郎兵衛用水土地改良区理事長 中澤政幸氏

7. 問合せ先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科地域資源利用学研究室 (中村好男)

☎03-5477-2337 FAX 03-5477-2620

E-mail : nyoshi@nodai.ac.jp

平成 21 年度東京フォーラムの開催について

地球環境問題に対する農山漁村からの貢献~生物多様性と農村環境の保全と再生, 平成 22 年度予算の概要~

主催: 全国農村振興技術連盟・(社) 農業農村工学会

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催の趣旨

わが国農村では, 水田等の農地や, 用排水路, ため池等の多様な環境が, 農業の営みを通じて連携し, 多くの生物を育む環境を保全・形成してきました。しかしながら, 経済性や効率性を追求した営農形態や農地・農業水利施設等の形態の変化, 高齢化, 過疎化等による農地・農業水利施設等の管理不足などから, 生物の生息・生育環境の質が低下し, 生物多様性の危機が生じてきています。

折しも, 平成 22 年 10 月には名古屋において生物多様性条約締結国会議 (COP 10) が開催され, 生物多様性の保全に関する 2010 年目標の達成状況の評価と今後の目標の設定などが議論されます。多種多様な生物が生息する農村地域にあつては, 今後の農地・農業水利施設の保全と再生にあたり, 生物多様性の保全への配慮が一層強く求められることが予想されます。

平成 21 年度東京フォーラムでは, 地球環境問題としてその対策が強く求められてきている「生物多様性の保全」について取り上げ, 生物多様性の保全に関する国際的な動きやわが国における取組みを紹介し, 今後の農地・農業水利施設の保全と再生にどのように取り組んでいくべきかについて考える契機とするため, 長年にわたりこうした課題に取り組まれておられる講師の方々から講演いただくことにしております。

また, 平成 22 年度農業農村整備予算の内容につきまして説明いただくことにしています。

下記要領により開催いたしますので, 多数のご参加をお願いいたします。

2. 開催日 平成 22 年 2 月 16 日 (火) 9 時 50 分~16 時 45 分
受付は午前 9 時 15 分からはります。

3. 場 所 東京都千代田区北の丸公園 2-1 科学技術館 B 2 F

サイエンスホール ☎03-3212-8485

4. 参加費 8,000円(昼食代は含まず。参加費は当日会場にて申し受けます。)

5. 参加申込方法および申込先

- ・各地方連盟で取りまとめのうえ、所属する地方協議会にお申込下さい。
- ・地方協議会に所属していない個人会員の方は、全国農村振興技術連盟まで直接お申込下さい。
- ・お申込はいずれも、所属・氏名を明記のうえ、ハガキまたはFAXをお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

全国農村振興技術連盟

☎03-3434-5407 FAX 03-3578-7176

6. 申込締切 平成22年1月29日(金)

7. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

開会挨拶 9:50~

太田 信介(全国農村振興技術連盟委員長)

宮崎 毅(社団法人農業農村工学会会長)

梶木賞・広報大賞の表彰

1. 特別講演 10:30~11:45

○生物多様性の保全に関する最近の国際的な動きと農地・農業水利施設の保全と再生について(仮称)

東北大学大学院生命科学研究科教授 中静 透

2. 講演 12:45~14:15

○生物多様性に配慮した農地・農業水利施設の保全と再生について(仮称)

宇都宮大学農学部教授 水谷 正一

3. 講演 14:25~15:55

○生物多様性保全型農業の豊岡市の取り組み(仮称)

豊岡市コウノトリ共生部長 村山 直康

4. 講演 5:55~16:45

○平成22年度農業農村整備関係予算と農業農村整備の取り組み(仮称)

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 印藤 久喜

8. その他

本フォーラムは、農業農村工学会技術者継続教育機構の会員のCPD5単位(申請中)にカウントされます。また、農業土木技術管理士の資格更新に必要な研修に代わる研修になります。

東京フォーラム参加申込書

所属機関名: _____

所在地: _____

連絡先: _____

連絡者: _____

所属機関名等	氏名	継続教育会員番号	摘要

※記入欄が不足する場合は、この表に準じた様式で追加してください。

第56回風に関するシンポジウム開催について

第56回風に関するシンポジウムを下記のとおり開催いたします。関係の皆様には、是非ともご講演、ご参加下さるようお願いいたします。

幹事学会 日本風工学会

共催学会 農業農村工学会他16学会

1. 日時 2010年3月18日(木) 10:00~18:05

(交流会: 18:05~19:30)

2. 場所 京都大学防災研究所 きはだホール

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

3. 参加費 無料

4. プログラム(案)

10:00~10:05 開会挨拶

10:05~11:50 一般講演(1)

11:50~13:00 (昼食)

13:05~14:00 特別講演(予定)

14:00~14:05 (休憩)

14:05~16:00 一般講演(2)

16:00~16:15 (休憩)

16:15~18:00 一般講演(3)

18:00~18:05 閉会挨拶

18:05~19:30 交流会(会費3,000円程度)

5. 講演要領

1講演15分程度(講演関連資料を配布される場合は当日会場にお持ち下さい)

なお、会場には発表用のプロジェクタを用意します。パソコンは各自ご用意下さい。

6. 講演申込方法

(1)講演題目, (2)講演者氏名(連名の場合には講演者に○印), (3)勤務先(所属, 所在地, 電話・FAX, E-mail アドレス), (4)200字程度の講演要旨, (5)交流会出欠, を下記まで, 郵送またはE-mailにてお申し込み下さい。

7. 申込先

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門 河井宏允あて

☎0774-38-4165 FAX 0774-38-4170

E-mail: kawai@dpri.02.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

8. 申込締切 2010年2月28日

第 47 回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について

この研究発表会は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究の発表と討論を行い、各分野間の知見と技術の交流を図るものです。奮ってご応募、ご参加下さいませようご案内いたします。

1. 主 催 日本アイソトープ協会
2. 共 催 農業農村工学会ほか 61 学協会 (予定)
3. 会 期 2010 年 7 月 7 日 (水) ~7 月 9 日 (金)
4. 会 場 日本科学未来館 7 階 (東京都江東区青海 2-41)
5. 内 容

それぞれの研究分野において、その専門的な成果を得た放射性同位体、安定同位体や放射線の利用研究、およびこれら利用の基礎となる研究。少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること。

6. 発表者の資格

発表者の一人が本発表会の主・共催学・協会の会員であること。

7. 発表申込区分

1. 基礎データ, 2. 放射線測定機器・測定法, 3. 分析 (放射化分析, 放射化学分析等), 4. トレーサ利用, 5. 製造・分離・標識化, 6. 線源・加速器, 7. 放射線利用機器 (ラジオグラフィ, エネルギー利用, 発光塗料等も含む), 8. 陽電子消滅, 9. メスバウア効果, 10. 放射線効果, 11. 地球科学・宇宙科学, 12. 環境放射能, 13. ライフサイエンスへの利用, 14. 薬学への利用, 15. 医学への利用, 16. 安定同位体, 17. 放射線管理 (汚染除去, 健康管理, 安全取扱, 廃棄物処理, 運搬, 遮へい, コンピュータによる管理等), 18. 放射線教育・コミュニケーション, 19. コンピュータ利用 (シミュレーション, データ処理, 解析技術等), 20. その他

8. 発表形式 口頭発表またはポスター発表。

9. 口頭発表時間 1 件 15 分 (発表 12 分, 討論 3 分)

Power Point (Microsoft 社製) 利用による発表とします。

10. ポスター発表

1 件の発表に展示パネル (横 90 cm×縦 210 cm) 2 枚を用意します。

11. 申込方法

日本アイソトープ協会ホームページ (<http://www.jrias.or.jp/>) 上から申し込み下さい。ホームページを利用できない方は事務局までお問い合わせ下さい。

12. 申込締切 2010 年 2 月 28 日 (日)

13. 講演要旨

口頭発表, ポスター発表とも, 1 件につき A4 判用紙 1 枚。

要旨原稿の書き方と見本は, 日本アイソトープ協会ホームページに掲載されています。

14. 講演要旨原稿締切 2010 年 4 月 15 日 (木)

15. 参加費 2,000 円 (学生は無料)

要旨集 3,000 円 (消費税含む)

16. その他

- (1) 論文集は発行しません。日本アイソトープ協会が発行する学術論文誌 RADIOISOTOPES への投稿を歓迎します。
- (2) 発表申込件数, 内容等によっては口頭発表からポスター発表に, またはポスター発表から口頭発表への変更をお願いすることがあります。
- (3) 英語での口頭発表が可能です。ご希望の方は申込の際に, 内容説明欄にその旨を付記して下さい。

17. 問合せ先

アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会事務局

日本アイソトープ協会学術部学術課 稲毛, 西島

〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45

☎03-5395-8081 FAX 03-5395-8053

E-mail : gakujutsu@jrias.or.jp

URL : <http://www.jrias.or.jp/>

ICID 第 6 回アジア地域会議における発表論文の募集について

2010 年 10 月に, インドネシア・ジョグジャカルタにおいて, 国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 6 回アジア地域会議が開催されます。ICID 日本国内委員会は, 下記の要領に従い, 上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は, 別記の連絡先までご連絡下さい。なお, 提出頂いた要旨と結論 (Summary and Conclusion) は, ICID 日本国内委員会で内容を確認した後に, 会議主催者に提出いたします。

1. 会議開催概要

開催期間: 2010 年 10 月 10 日 (日) ~16 日 (土)

開催場所: インドネシア・ジョグジャカルタ

2. 発表者募集の対象会議

ICID 第 6 回アジア地域会議

3. 募集テーマ

【会議テーマ】

Improvement of Irrigation and Drainage Efficiency through Participatory Irrigation Development and Management under the Small Land Holding Conditions

- (1) Irrigation under the Escalating Water Scarcity and

the Issues of Agricultural Land Conversion and Agricultural Land Fragmentation

- (2) Challenges for Irrigated Agriculture under the Small Land Holders in the Approaching Decades:
 - a. Irrigation Water for Food Security.
 - b. Irrigation Water for Supporting Human Living.
 - c. Irrigation Water for Supporting Environment.
- (3) Improvement of Irrigation and Drainage Efficiency through Participatory Irrigation Development and Management under the small Land Holding Conditions.
- (4) Multifunctional Roles of Irrigation Water and the Role of Sustainable Balance of Ecosystem under the Small Holder.
- (5) Synergizing of the Small and the Large Holder Irrigation under the Rapid Development of Rural and Urban Infrastructures.

4. 参加表明および要旨と結論の提出

2010年2月15日(月)までに、要旨と結論(Summary and Conclusion)をE-mailで、8.に記載の宛先まで、ご提出して下さい。

5. 作成要領

要旨と結論を500~600ワードの英文で作成。連絡先著者の氏名をファイル名としたワードデータ(例: 総研太郎の場合、souken_tarou.doc)とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mail

アドレスを記載下さい(連絡先著者を最初に記載)。

なお、提出頂いた要旨と結論については、日本国内委員会では内容を確認いたします。その結果については、2010年2月26日(金)までにご連絡いたします。

詳細は、第6回アジア地域会議のウェブサイト(<http://icid2010.org/>)をご確認下さい。

6. 論文の作成

Full Paperの作成要領は、第6回アジア地域会議のウェブサイトに掲載されているFinal Bulletin(Second Announcement)をご参照下さい。主催者より追加情報があれば、発表予定者にご連絡いたします。なお、Full Paperについては、2010年4月23日(金)までにご提出下さい。

7. 今後の予定

- ・日本国内委員会の要旨と結論の締切 2010年2月15日(月)
- ・会議主催者への要旨と結論の提出 2010年2月28日(日)
- ・会議主催者による要旨と結論の受理の公示
2010年3月30日(火)
- ・日本国内委員会のFull Paper締切 2010年4月23日(金)
- ・会議主催者のFull Paper締切 2010年4月30日(金)

8. 論文送付先および連絡先

〒151-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル(財)日本水土総合研究所(日本国内委員会事務局)

☎03-3502-1576 FAX 03-3502-1329

担当: 原 伸介 shinsuke-hara@jiid.or.jp

小林慶一郎 keiichirou-kobayashi@jiid.or.jp

農業土木学会選書16

高生産性水田農業と基盤整備

—その事例と展望—

(社)農業農村工学会発行

目次

I. 本編	第11章 大区画圃場整備と乾田直播 —福島県原町市高地区—
第1章 直播栽培の技術	第12章 大区画圃場整備と乾田直播 —千葉県印旛沼地区—
第2章 高生産性水田の管理技術	第13章 圃場整備を契機とした集落営農 —新潟県三島町三島南部地区—
第3章 稲作機械化の新技术	第14章 乾田直播栽培—福井県春江町姫王地区—
第4章 高生産性水田における水管理技術	第15章 不耕起乾田直播栽培の適用例 —岡山県岡山市幸田地区—
第5章 大区画水田の基盤整備技術	第16章 大区画圃場の整備と先進的低コスト水田農業 の確立—広島県大和町福田地区—
第6章 大規模水田経営と生産組織 —国際化と日本稲作農業の対応方向—	III. 資料編
第7章 農政の国際規律と土地改良	第17章 パネルディスカッションの記録 「高生産性水田農業と農業基盤整備の展開」
II. 事例編	第18章 高生産性圃場の整備技術 —岡山県鍋島実験農場—
第8章 殖民区画の再整備 —北海道深川市新千代第6地区—	第19章 圃場整備の事業制度の変遷
第9章 大区画圃場整備事業を契機にした集落農業の 再編—岩手県紫波町土館地区—	
第10章 大区画圃場整備と農地の利用集積 —山形県遊佐町月光川右岸地区—	

A 5判 約200ページ 定価3,400円(内税・送料学会負担)
会員特価2,800円(内税・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494